

リビルドエンジン事業をPR

日本エンジンが国際オートEXPOに出展

日本エンジン株式会社（高橋剛社長、☎0587-21-5591、愛知県稲沢市奥田大沢町10番地）では、このほど、東京ビッグサイトで3月15日～17日の3日間にわたり開催された「第15回国際オートアフターマーケットEXPO」に出展し、リビルドエンジンやエンジンカットモデルの実機展示、リビルドエンジン事業現況についてパネル展示を通して企業活動をPRしました。

日本エンジンは昭和22年（1947年）創業以来、発電設備、特殊車両、産業機械などに搭載される、ディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガソリンエンジンなど各種エンジンのリビルド事業（再生事業）に特化して取り組んでいる専門メーカーです。

今回、展示会場で取材に応じた、日本エンジンの山口英生・営業部長の説明によると、「国内のリビルドエンジン市場において、弊社が受注するリビルドエンジンの整備台数は年間平均で1,000台程度です。内訳は、商用トラックなどの「輸送用車両」を中心として、建設現場で使用される「特殊車両」や「一般工事用建設機械」に搭載されていたエンジン関連の整備の依頼が圧倒的なシェアを占めています。その他は「発電設備」や「産業機械」に搭載されていたエンジンに関する修理やオーバーホールなどです。」とのことでした。

一方、日本製の乗用車や特殊車両は、フィリピン



山口英生・営業部長（左）と佐々木義高・フィリピン法人副社長（左から2人目）



リビルドエンジンのカットモデルを熱心に見つめる来場者

など東南アジアを中心とする中古車市場向けに大量輸出されていると言われていています。そうした中古車の流通実態を踏まえ、「弊社では平成27年（2015年）7月、フィリピン・ラグナ市にリビルド事業を展開する現地法人『San-Esu Japan Inc.(代表者名・Mr. Naoki Yoshinaka General Manager)』を設立しました。従業員数17名。内訳は、技術スタッフ12名（うち、日本からの出向者1名）、事務スタッフ4名、日本からの役員1名です。」（佐々木義高現地法人副社長談）。

また、「フィリピンでの受注実績は順調に推移しています。売上高の8割は「日本製トラック」向けエンジンの修理やオーバーホールが占めています。残りの2割は「日本製乗用車」向けエンジンの点検整備となっています。日本製車両の中古エンジンを移動式発電設備の原動機としてや、産業機械の動力源として、搭載し直された『転用型エンジン』関連のリビルド発注はありそうですが、現時点でフィリピンでは皆無です。」（同）。

日本エンジンが今後注力する分野に関して、山口部長によると、「国内市場において、車両部門以外からの新規顧客の獲得や、新規受注の拡大に向けて注



来場者の注目を集めた日本エンジンのブース



展示されたシリンダーヘッドのモデル

力して参ります。特に自家発電設備の取扱事業者や、発電設備のユーザーに対して、搭載エンジンの定期点検や分解整備を推奨するとともに、その際、リビルドエンジンの積極的な採用を提案していきます。」とのことでした。

また、「中でも設備ユーザーに対しては、リビルドエンジンは新品エンジンと遜色ない性能を有してい

る点を正しく認識していただけるよう、啓蒙活動にも注力して参ります。それにより、今後、リビルドエンジンの国内での流通市場がきちんと確立し、欧米での流通市場と規模を並べるまで成長していくよう、新たなニーズを掘り起こして安定的な需要を獲得できるよう、注力して参ります。」とのことでした。



国交省が発電機14型式を指定

国土交通省では3月30日付けで、「低騒音型・低振動型建設機械」として発動発電機7型式を含む合計59型式の追加指定を行いました。今回指定分を加え、低騒音型建設機械は延べ6,009型式となります。そのうち、低騒音型発動発電機は延べ952型式となります。一方、低振動型建設機械は今回指定を受けた1型式

国土交通省では3月30日付けで、第3次基準値適合の「排出ガス対策型建設機械」として発動発電機7型式を含む合計12型式の追加指定を行いました。今回指定分を加え、第3次基準値適合の排出ガス対策型建設機械は延べ664型式となります。そのうち、第3次基準値適合の排出ガス対策型発動発電機は延

を加え、延べ28型式となります。

この型式指定は平成9年から実施しています。建設工事に伴う騒音・振動対策として、騒音・振動が軽減された建設機械を「低騒音型・低振動型建設機械」として現在、3か月毎に、指定を行っています。

べ202型式となります。

同省では「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領」（平成18年3月17日付国土交通省大臣官房技術審議官通達）を策定し、平成18年から、3か月毎に、第3次排出ガス対策型建設機械の型式指定を実施しています。

低騒音型発動発電機

型式	諸元	申請社名	備考
SDG25LX-5B1	定格容量 25 kVA	北越工業(株)	○
SDG25LAX-5B1	定格容量 25 kVA	北越工業(株)	○
SDG45LX-5B2	定格容量 45 kVA	北越工業(株)	○
SDG45LAX-5B2	定格容量 45 kVA	北越工業(株)	○
SDG60LX-5B1	定格容量 60 kVA	北越工業(株)	○
SDG60LAX-5B1	定格容量 60 kVA	北越工業(株)	○
NES300TK	定格容量 300 kVA	日本車輛製造(株)	

※備考欄に『○』の印があるものについては、超低騒音型建設機械の標識（ラベル）を表示することができます。

排出ガス対策型発動発電機(第3次基準値)

会社名	分類	型式	諸元
日本車輛製造(株)	ディーゼルエンジン駆動	NES300TK	定格容量(kVA) 300
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG25LX-5B1	定格容量(kVA) 25
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG25LAX-5B1	定格容量(kVA) 25
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG45LX-5B2	定格容量(kVA) 45
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG45LAX-5B2	定格容量(kVA) 45
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG60LX-5B1	定格容量(kVA) 60
北越工業(株)	ディーゼルエンジン駆動	SDG60LAX-5B1	定格容量(kVA) 60